

病理学〈先進機能病理学分野〉

担当指導医師

●本学

教授：澤井 高志

講師：木原 美和

助教：鎌滝 章央、三浦 康宏

非常勤講師：黒瀬 颯、菅野 祐幸、木村 伯子、今野 秀彦、笹野 公伸、鈴木 貴

基本方針：

剖検症例を用いて病態、検査および画像データ、治療などの臨床的問題点の解析と剖検症例の肉眼、組織所見などの病理学的解析により症例を把握、これを表現する力を養う。

実習内容：

次の2つの場合から1つを選択する。

1. 剖検症例から一例選び、その患者についての症状、検査項目、治療、経過を検討し、症例がなぜ死にいたったかについて臨床側からの問題を提起する。この臨床経過、治療学的な問題については、患者の主治医からの指導、説明を受ける。一方で剖検時の肉眼所見、組織所見を検討することにより病態の把握と死因についての考察をおこなう。最後に臨床－病理の問題点を突き合わせることによって、今回解明できたこと、今後の問題として未解決で残ることを明らかにする。また、該当する疾患について文献を調べ、考察して問題点の解決を図る。最後に症例をまとめ、雑誌への投稿を目標に実際に論文の書き方を学ぶ。
2. リウマチ、膠原病疾患などで本院に入院中の患者症例を一例選び、患者、主治医の了解のもとに、患者の症状、臨床検査、X線検査などのデータを勉強し、生検組織がある場合はこれを顕微鏡で観察し、手術の場合はこれに立ち会い、試料を一部分けて貰って自分で標本を作製する。標本を顕微鏡で観察し所見を書いて診断書を作成する。さらにその疾患についてインターネット、図書館などで文献を調べ、症例のレポートを作成する。その際、顕微鏡写真の撮影の仕方やレポートの書き方を学ぶ。
3. 意義：一例ではあるが、生前から剖検まで一貫して検討することにより、患者や患者の病態を把握し、さらに将来、卒業して医師になった際に必要となる表現方法や論文の書き方を学ぶ。
4. 備考
 - (1) 高次臨床実習で使用する機器
 - 1) PC一式 (PowerMacG5) : CPC 症例検討会で使用する。
 - 2) プラズマディスプレイ (パイオニア) : CPC 症例検討会で使用する。
 - 3) ノート型 PC (パナソニック) : CPC 症例検討会で使用する。
 - 4) バーチャルスライド : 組織所見の観察
 - 5) CS デジタルハイビジョン液晶テレビ (LC-37GX5) : 病理 DVD 閲覧
 - 6) パソコン一式 (MacBook Pro) : 学生講義資料作成
 - 7) ブルーレイディスクレコーダー (BDHDW25) : 病理学講義用 DVD 閲覧

- 8) カラー複合機 (Color image RUNNER iRC3080F) : 講義資料作成
- 9) 液晶ディスプレイ (S1921-SHGY) : 学生講義資料作成
- 10) パソコン FMV-A8270 (FMVNA8JE4) : 講義資料作成
- 11) 標本ブロック加湿器 (SMB-1) : 実習標本作製
- 12) 密閉式自動固定包埋装置 (VIP-5-Jr-J0) : 実習標本作製
- 13) パソコン (CF-W8 CF-S8HWECDS) : 学生講義資料作成
- 14) パソコン (6730b) : 学生講義資料作成
- 15) パソコン (PC-VY18VSA5ZMG8) : 学生講義資料作成
- 16) パソコン (Lm-i903X) : 学生講義資料作成
- 17) パソコン (4320s/CT) : 学生講義資料作成
- 18) パソコン一式 (FMVN905AT) : 学生講義資料作成
- 19) パソコン (PCVW970BS) : 学生講義資料作成

